

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立ろう学校
-----	----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・最終評価では全項目A評価だった。 ・日本語の「読む・書く・話す」力とコミュニケーション能力の育成に取り組みで一定の成果を上げることができた。 ・同じ障害のある児童生徒のとの交流をとおして、豊かな心を身につけ、障害理解を深めることができた。 ・聴覚障害教育の専門性の向上に努めた。 ・地域支援としての指導や相談件数が増加した。 ・時間外勤務が減少した。
------------------	--

2 学校教育目標	県内唯一の聴覚障害教育の学校として、幼児及び児童生徒一人一人の個性や能力、教育的ニーズに応じて、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準ずる教育を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、将来、自立し社会参加できる力を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	(1)聴覚障害教育の専門性の向上を図るための研修の充実及び校内研究の推進 (2)幼児児童生徒の個性や能力、教育的ニーズに応じた、きめ細やかな指導の実現 (3)地域のニーズに応える聴覚障害教育のセンター的機能の充実 (4)学部間の連携による「チームろう学校」としての組織体制の確立
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
重点取組				最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○年間3回(毎学期)の保護者との面談を通して個別の指導計画等を学期毎に作成し、目標達成を図る。 ○生徒全員の明確な進路意識の向上を図る。 ○希望進路の実現を目指す。	・保護者と連携し、個別の指導計画等の作成、評価に係る環境整備をする。また幼児児童生徒の授業内容の理解度や授業への「ねがい」を把握し、適切な目標を設定する。(教務部) ・生徒及び保護者の希望やニーズを把握するために面談、進路希望調査を実施する。 ・就業体験、事業所及び学校見学、進路学習会、ジョブティーチャー派遣、企業現場における作業学習などの進路指導の取組みを充実する。 ・関係機関と連絡を密にとり、情報収集に努める。 ・進路指導やキャリア教育に係る情報を積極的に発信する。(進路指導部)	A	・個人懇談会や面談で話し合った内容を基に、個別の指導計画を作成した。また、予定していた支援会議がすべて終了し、個別の教育支援計画を作成し、情報共有した。
				A	・年度当初に計画した具体的な取り組みについては、滞りなく進んだ。 ・高等部3年生については、全員の進路が決定した。(大学進学2名、就職1名、福祉就労2名)
		○聴覚障害教育における指導の充実のために、年17回以上の職員研修を行い、実践的な指導力の向上を図る。	・各学部研究・研修(月2回)、新任者研修会(年11回)、指導力向上研修会、その他全体研修会や手話研修会等を実施する。(研究研修部)	A	・年度当初の計画通り実施できた。
	◎日本語の「読む・書く・話す」力とコミュニケーション能力の育成	◎「日本語の「読む・書く・話す」力が向上した」と回答した教職員70%以上	・語彙力、文法、書き言葉や話し言葉等、幼児児童生徒の実態に合ったきめ細やかな言語指導を実施する。(各学部)	A	・「日本語の「読む・書く・話す」力が向上した」と回答した教職員が88%
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○幼児児童生徒が学校間交流や共同学習を通して、豊かな心を身につけ、障害理解を深めるために交流年間計画80%以上を実施する。	・(幼)錦華幼稚園(年6回)、久留米聴覚特支学校(年1回)、がらがらどんお話し会(年2回)。 ・(小)開成小学校(各学年年1～2回)、久留米聴覚特支学校(年1回)、居住地校(希望者)と交流(年1回～2回)。 ・(中)北山校との交流(年1回)、松梅校との交流(年1回)、久留米聴覚特支学校との交流(年1回)、居住地校(希望者)と交流(年2回程度)。 ・(高)牛津高手話部との交流(年4回)。	A	・(幼)錦華幼稚園との交流は1学期に2回、2学期に3回実施した。3学期にもう1回行う予定で準備を進めている。久留米聴覚特別支援学校との交流についても計画的に行うことができ、充実した交流となった。がらがらどんお話し会も計画的に行うことができた。 ・(小)開成小、久留米聴覚特別支援学校、居住地校と連絡を取り、計画的に交流を実施することができた。居住地校交流についても、全学年の児童が交流を行った。集団活動の中で、ルールや決まりを守る等、仲間関係の中で育つ社会性の課題が見えた。 ・(中)1学期に北山校、2学期に松梅校との交流を実施した。久留米聴覚特別支援学校との交流は2月6日に実施予定である。居住地校交流は1年生が12月に三田川中学校で行った。来年度については、各交流校と連絡を取り合って交流を計画していく。 ・(高)小城高校と牛津高校と交流した。牛津高校については、リモートでの交流、牛津高校文化祭で一緒に手話を披露した。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめ事案への対処 ○「児童生徒間のトラブルが、大きな問題になる前に適切に対処している」と回答した教職員90%以上。	・児童生徒間の交友関係を日頃から注視し、問題に繋がりそうなトラブルを早期に発見し適切に対応する。 ・学校生活アンケートを実施し、結果から早期発見、対応する。(生徒指導部)	A	・学校アンケートを6月と11月に実施し、気になる点については、教職員で早期に情報共有し、適切に対応することができた。 ・「児童生徒間のトラブルが、大きな問題になる前に適切に対処している」と回答した教職員100%
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・児童生徒に見通しと振り返りの活動を持たせ、自主的で意欲的な態度を育む授業を実践する。(各学部) ・教育活動全体で、きめ細やかな生徒指導の取り組みを実践する。(生徒指導部)	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒100% ・暴排教室や防犯教室、交通安全教室を実施し、現在や将来の安全・安心につながる学習ができた。
	●望ましい生活習慣の形成	○「食事・健康に関する調査」アンケートで、健康により食事をしていると回答した児童生徒80%以上	・年に2回アンケートを実施する。 ・望ましい生活習慣について、保健だよりや給食だよりで毎月取り上げる。 ・各学部で実態に応じた生活習慣についての指導を行う。	A	・学校評価アンケートでは、中間評価と同様の結果で目標達成できた。また、「食事・健康に関する調査」アンケートで、健康により食事をしていると回答した児童生徒91%で目標達成できた。 ・生活習慣チェックについては、1月中に実施し、望ましい生活習慣の確立に向けての指導に生かす。
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の形成	○歯みがきに対する意識の向上を図る。	・年2回ブラッシング指導を行う。 ・長期休みの前に歯みがきカレンダーを配布する。 ・特別支援学校における歯科保健指導支援事業を活用する。	A	・12月に歯科保健指導支援事業を活用し、個別指導内容を本人に伝えることで、歯磨きに対する意識の向上に繋がった。また、家庭、寄宿舎、学校でも指導内容を共有することで、さらなる意識の向上を図った。
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○早期発見・療育につなげるために、各地区の保健師の方々と必ず1回は連絡をとり、連携に努める。	・SNSの更新、新しく作成した乳幼児教育相談の案内チラシを関係機関へ配布。 ・県市町の母子保健事業との連携拡充(1学期中に担当者へ連絡) ・県保健福祉事務所主催の研修会等で保護者や各関係機関への周知活動や担当者への挨拶等を実施。(支援部)	A	・年間20回程度、SNSの更新を行った。 ・県内の保健師や幼稚園教諭・保育士の研修会等で乳幼児教育相談について案内する機会を作った。(計12回)
	●地域支援	○佐雑言難聴部会と連携した公開講座や研修会において、難聴学級担当の先生方のニーズを把握し、各担当と連携を図りながら必要な支援や助言につなげる。	・佐雑言研の際に、難聴学級担任へアンケートを取り、ニーズを把握する。(夏季休業中や年度末) ・アンケートをもとに、研修内容の精選を随時行う。 ・公開講座や巡回相談等での関わりが少ない担当者へ優先的に声をかける。 ・公開講座や研修会における評価の実施。(支援部)	A	・難聴学級の8割以上の担任に声をかけ、児童生徒の情報をきいたり相談を受けたりした。 ・佐雑言研で、今年度の感想等を聞くとともに、来年度に向けたニーズの把握のアンケート調査を行った。
	●巡回相談、教育相談等をきっかけに、地域の園や学校の聴覚障害教育への理解を深める。	○巡回相談、教育相談等をきっかけに、地域の園や学校の聴覚障害教育への理解を深める。	・依頼校のニーズに対応した学部・教科担当者によるチームでの支援の実施。 ・園・学校などへの支援・助言後に、その後の様子を電話やメール等で伺い、必要に応じて支援・助言を継続し連携を図る。(支援部)	A	・巡回相談の依頼があったり相談を受けた学校の担当者へ連絡し、最近の状況を含め課題や悩み等を聞く機会を作った。集めた情報は一覧にまとめ、部内で共有した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各種会議の精選、及び時間短縮のために資料を事前配布する。 ・共有フォルダを有効的に活用し、効率的な業務遂行に努める。(教務部)	A	・会議資料の事前配布により、ほとんどの会議を予定時間内に終えることができた。 ・校務システムで設備予約(会議室、公用車)や「掲示板」「メッセージ」機能での情報共有が定着した。また、アンケートは、フォームズを利用する場面が増えた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
○聴覚障害教育の充実	○専門性(知識及び指導)の向上とスキルアップ	○「聴覚障害教育の専門性が以前より向上した。」と回答した教職員75%以上。	・校内外の各種研修会に参加し、研鑽を積む。 ・研究授業、公開授業の実践と評価を行い、こぼれ力の育成を意識した実践力を養う。(各学部)	A	・「聴覚障害教育の専門性が以前より向上した。」と回答した教職員が95%
○開かれた学校づくり	○聴覚障害や学校の情報を公開	○「学校の情報を多く発信した。」と回答した教職員75%以上。 ○「学校の情報を多く発信した。」と回答した保護者75%以上。	・学校だよりやHPをとおして学校情報の伝達を充実する。 ・体験学習・相談会などの啓発活動を実施する。(教務部・支援部)	A	・「学校の情報を多く発信した。」と回答した教職員96% ・「学校の情報を多く発信した。」と回答した保護者95%
○学部間連携による組織体制の確立	○学部間の情報を共有	○「学部間連携が取れた。」と回答した教職員75%以上。	・教務主任を中心に学部主事間の連絡を密にしながら、情報共有を図る。 ・学部毎に企画・実施していた行事を共有し、統一する。(教務部)	A	・「学部間連携が取れた。」と回答した教職員91% ・6月より毎月主事会を実施し、情報共有や情報交換を行った。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育					
5 総合評価・ 次年度への展望	・年間を通してPDCAサイクルにより適宜改善を図り、全項目A評価とした。 ・県内唯一の聴覚障害教育の学校として、聴覚障害教育等に特化した校内外での研修や指導力向上のための研究授業、校内研究等を実施し、専門性向上を図ることができた。次年度も、教職員個々のさらなる専門性向上を図りたい。 ・幼児児童生徒一人一人の個性や能力、教育的ニーズに応じた個別最適な指導・支援を実践し、幼児児童生徒の将来の自立や社会生活に必要な力の育成に取り組んだ。進路保障においては、高等部2名の大学進学、3名の就業、中学部1名の特別支援学校普通科への進学等、個々の生徒の希望進路をサポートすることができた。次年度も幼小中高一貫の特長を生かして、自立活動や各授業、学校行事、職場体験・就業体験等によるキャリア教育を充実させ、個に応じた将来の進路保障につなげたい。 ・日本語の「読む・書く・話す」力とコミュニケーション能力の育成に取り組む、一定の成果を上げることができた。次年度、育成の成果を図る評価方法等について検討し、学習評価の二期制導入及び指導と評価の一体化を進めることで、更なる指導・支援体制の充実を図りたい。 ・聴覚障害教育のセンター的機能を果たすべく、本校の取組に関する情報発信力を強化するためにHP・インスタグラム更新、学校だより発行、学校行事への外部参加の促進等を図った。来年度も開かれた学校づくりの一環として各種広報周知活動に力を入れたい。 ・令和6年度は学部間連携により創立100周年記念行事等、各種学校行事を幼児児童生徒が主体的に参加できるよう企画運営した。次年度も「チームろう学校」として、風通しよく心理的安全性の保たれた職場環境を整備し、教育活動を常時工夫改善していきたい。				